

# 漁況予報 いわし

## 第 1 1 2 号

2002年 7～8 月漁期  
(2002年7月 5 日発行)

### ＝ 概況 ＝

#### 【まいわし】

主要定置網における5月のマイワシ総漁獲量は、極めて少なかった昨年同期(101kg)を上回る3.6トンでしたが、これは過去5年平均の4.7%でしかありません。6月に入っても下旬現在、依然として極めて低調に推移しております。中型まき網(4統)も5・6月通して皆無の状況です。全国的にも5月の水揚量は前年同期の7%しかありませんでした。

年々、相模湾への産卵後の索餌北上群(大羽)の来遊が遅れるなか、とうとう今年は6月が終わろうとしている現在でも大羽マイワシのまとまった来遊は見られません。銚子では6月に入り15, 24日と1,000トンを越える水揚げがありました。いずれも中羽(15～16cm)主体で、やはり大羽の水揚げは殆どないようです。

このように大羽マイワシが非常に少ないことに加え、ここ2年相模湾で多く見られた当歳魚(ヒラゴ)も今年はかなり少ないようです。

昨年は7月11日で相模湾におけるまき網の大羽マイワシ漁は一旦切れましたが、これまでの状況からすると、今年も夏場の漁はあまり期待できそうもありません。

#### 【かたくちいわし】

主要定置網における5月のカタクチイワシ漁況は、540トンで昨年同期の2倍の水揚量を記録しました。特に西湘地区(7統)では、115トンと過去4年平均値13トン大きく上回る漁獲量で、地区別では相模湾奥部(鎌倉～平塚:6統)で300トンと最も多い漁獲量でした。6月に入っても好漁は続いており過去3年を上回るペースで推移しております。

佐島地区のまき網は、5月としては過去最高の漁獲量を記録した昨年には及ばないものの、多くの漁獲があり、餌イワシとして生け簀に活かしています。6月に入っても定置網同様、好漁が続いており過去最高の漁獲量となりそうです。

なお、カツオ漁の状況が悪いなか、餌イワシが供給過剰の状況にあり、やむなく市場に水揚げするケースが多くなっています。

#### 【しらす】

解禁以来、極めて低調な漁況が続く相模湾のシラス漁ですが、5月に入り、ゴールデンウィーク中と12日からの約1週間が好漁期間となり、各地で100～600kg/統/日の漁獲水準となりました。なかには1日で1トン近く漁獲する船もありました。しかし、5月最終週に切れた状況になり、6月に入っても協議会視察の翌日にややまとまった漁があった以外は殆ど漁のない日が多く、特に東部では極めて悪い漁模様になっています。結局、今年の春シラスの漁獲量は、昨年の半分にも満たないまま、終漁となりそうです。

＝ 予 報 ＝

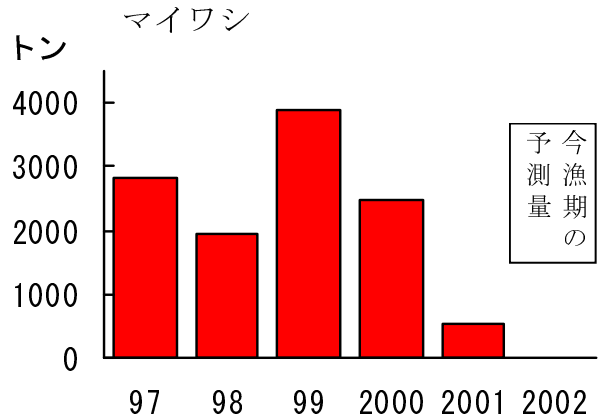
過去5年の7・8月漁期の漁獲量  
と今漁期の予測量

まいわし

今漁期は、中羽イワシ(2001年級群)と当歳魚(2002年級群)が漁獲の主体となります。

大羽マイワシ資源が減少の一途をたどるなか、まとまった来遊が期待できないことから、定置網主体の漁獲となるでしょう。

今漁期の漁獲量は、約10トンと予測されます。



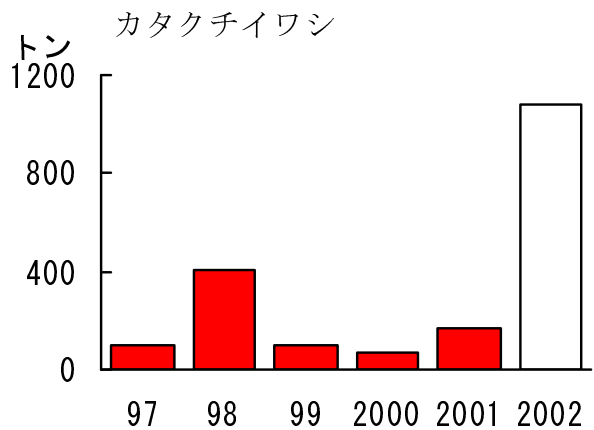
\*縦軸：主要定置網+まき網

かたくちいわし

今漁期は、小型成魚が漁獲の主体となります。

前漁期まで成魚が昨年以上に来遊しており、マイワシが期待できない分、まき網もカタクチイワシに漁獲努力が向けられるでしょう。

今漁期の漁獲量は、約1,020トンと予測されます。



しらす

今漁期は、5～6月生まれのカタクチシラスが漁獲の主体となります。

5・6月の定線観測では、98年並みに非常に多くのカタクチイワシ卵が採集されていますが、あまり多すぎても、シラス漁には良くない傾向があります。

今漁期の漁獲量は、約160トンと予測されます。

